
ラストジョーク

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラストジョーク

【Zコード】

Z6046B

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

じいちゃんが死んで、最初の僕の誕生日。じいちゃんの最後のプレゼントは、ささやかで僕にしか分からぬジョークだった。

溶けそうな位に眠い朝の事、僕の家に届いた贈り物は、じいちゃんからの、とつておきで最後の冗談だった。

じいちゃん、雪村琢也は数学者だった。それも、人生の半分を因数分解と連立方程式に費やすような変人だった。

そんなじいちゃんが、よく分からぬ病氣で死んでしまって、表面上は明るく振る舞つてゐる僕らの家族に届けられたのは、僕への誕生日プレゼントだつた。

前もつて用意されていた様で、つまり、自分が死ぬと分かつた時から時間差で僕へ渡す準備がなされていた訳で、それが姑息で、なんかムカつく。

そりやあ確かに驚きはしたが、素直に喜べない氣がして嫌だつた。サンタクロースの正体に気付いてから、プレゼントの希望をさりげなく言つ後ろめたさにも似ている。

「何だコレ?」

父親が手に取つてみたけれど、精密機械だという以外で用途は不明。

大きさは、国語辞書一つ分くらいで、重さは三つ分。外見は丁度、大きめの置き時計のような形をしてゐる。

「爆弾かしら」

「爆弾かもな」

そんな朝食にはふさわしくない会話をしながら、父親はそれを物色した。

僕は、その爆弾のような精密機械の正体を見抜いていた。一進法の置き時計だ。

イチとゼロの二つの数字で時を刻む時計。じいちゃんが、僕の軽い冗談を聞いていた事に僕は少しイライラする。

奇妙な数字の配列は、もはや時計とは思えない。役に立たない。

「こうより、立てない宿命を背負つてゐるといつてい。

「じいちゃんの考へる事は解んなないな」

父親が精一杯、明るそうに言ひ。

「そうね、爆弾かしら」

母親は、ほんやりと返す。

僕は朝食を続ける。じいちゃんの「冗談を理解できるのは、世界で

ただ一人、孫である僕ぐらいだろう。

「これ、僕のだから……」

朝食を食べ終わつた僕は、その一進法の置き時計を持つて階段を上がつた。

じいちゃんを思い出すためなら仏壇より、こっちの方が、ずっとマシだ。

部屋にあつた田覚まし時計をゴミ箱に入れると、スペースはぴつたりだつた。じいちゃんが、僕の部屋に入つて、田覚まし時計の大きさを調べていたとしたら少し面白いと思つた。

確に、国語辞書一つ分の田覚まし時計だつたからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6046b/>

ラストジョーク

2010年11月11日07時39分発行